

褥創治療でのサージトロンの使用例

中川 浩一 (済生会富田林病院 皮膚科)

■ デブリードマン (壊死組織の除去)

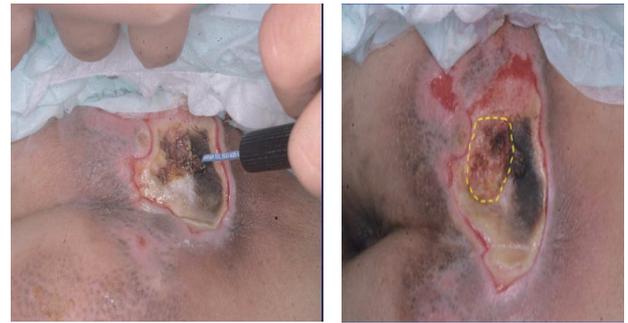
デブリードマンとは、初期の褥瘡に見られる黒色壊死組織や、黄色期に見られる不良肉芽を何らかの方法で取り除く手技です。褥瘡治療をするためにはまず外用薬が効力を発揮できる状態、もしくは手術にできる状態に持ち込みます。デブリードマンのタイミングは、黒色期では、境界が不明瞭のうちは触らず、固まって壊死の領域が決まってからが良いです。その後、壊死組織を削り取ります。

デブリードマンの方法は3つに分けられます。外科的方法はメスやはさみ、及びサージトロンのような手術機械を用いる方法です。化学的方法は、酵素の入った軟膏などで融解除去する方法です。保存的方法は我々が補助的に生食ガーゼなどで擦過し徐々に行います。外科的なデブリードマンというのは、スピードは早いですが、少し難しく、思いのほか出血するなど危険があります。化学的方法・保存的方法は効果が弱く時間がかかるが、比較的安全です。私はいつも外科的方法でデブリードマンを行なっています。

	外科的	化学的	保存的
スピード	速い	中間	遅い
テクニック	難	容易	中間
安全性	危険	中間	安全

今回はサージトロンによるデブリードマンの方法 (外科的方法) を紹介します。黒色期で壊死組織がついている褥瘡をサージトロンで取り除きます。ループ電極を使用し削っていきます。サージトロンを使用するとほとんど出血が起らないので安心して行えます。

壊死組織ではほとんど出血はありませんが、その下には正常の組織があるので、一気に削ると大出血の原因ともなります。



図①

図②

図②を見ていただければわかるかと思いますが、黒色化した壊死組織がまだ残っていますが、私はこの状態で終了し、翌日に残りを行います。もちろん全部取ってしまう先生もいらっしゃると思いますが、私は一度に治療して、術後に大量に出血すると良くないので図②の黄色点線部程の箇所のみを一度に行います。その後、生食で洗浄し、抗菌力のある軟膏 (ヨウド製剤など) を塗布します。褥瘡治療は気長に行うことが大切です。

■ 褥瘡のポケット

ポケットというのは褥瘡の辺縁からの皮下トンネルのようなものです。例えば図③の点線部をポケットと呼びますが、ポケットの原因としては皮膚のずれや感染などが考えられ、突然発見されることが多いです。



図③